第 65 回　中世のドイツ・イタリア・北欧

1　中世のドイツ地域

・ドイツ地域では、962 年に（　　）が成立していた。
→しかし歴代の皇帝は（　　）に熱中したため、神聖ローマ帝国内の諸侯は（　　）と呼ばれる半独立の地方主権国家となっていった。

フリードリヒ1世

◆（　　）（赤髭王）（シュタウフェン朝）（在位 1152～1190 年）
・イタリア政策を行ったが、北イタリアの都市は（　　）を結成して皇帝に対抗した。
・第３回十字軍に参加したが、途中の川でおぼれ死んだ。

フリードリヒ2世

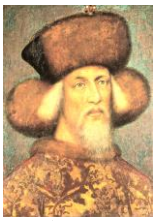
◆（　　）（シュタウフェン朝）（在位 1215～1250 年）
・ローマ教皇に破門されたため、しかたなく第５回十字軍を起こした。
→アイユーブ朝と和平を結び、聖地イェルサレムを平和的に回復した。

2　大空位時代

・1254 年、シュタウフェン朝が断絶すると、1273 年まで神聖ローマ皇帝が事実上決まらない（　　）となった。

カール4世
本拠地のプラハにプラハ大学を建てたことで知られる。

◆（　　）（ルクセンブルク家）（在位 1347～1378 年）
・1356 年、（　　）を発布して７人の大諸侯を（　　）とし、神聖ローマ皇帝を選ぶ選挙権を与えた。


ジギスムント
カール4世の息子。妻がハンガリーの女王であったため、彼自身もハンガリー王を兼任した。

◆ジギスムント（ルクセンブルク家）（在位 1411～1437 年）
・ハンガリー王時代の 1396 年、（　　）でオスマン帝国のバヤジット１世と戦ったが敗れた。
・1414 年、（　　）の開催を提唱した。
→1378 年より続いていた（　　）を終わらせた。
→イギリスの（　　）とベーメン（ボヘミア）の（　　）を異端とし、フスを火あぶりとした。
→これに反発したベーメンでは、（　　）という反乱となった。

・15 世紀前半以降、神聖ローマ皇帝は（　　）から出されるようになったが、神聖ローマ帝国は約 300 の領邦に事実上分立する状態が続いた。

バヤジット1世
オスマン帝国の第４代スルタン。素早く軍を動かすことから、稲妻の異名をとった。
しかし最後はティムールに敗れた。
第 80 回も見よう。

ウィクリフ
オクスフォード大学教授で、13 世紀に聖書の英語訳を行ったことで知られる。コンスタンツ公会議が開催された時には、すでに病死していた。

フスの火刑
フスはプラハ大学の学長で、贖宥状（免罪符）を販売する教会を痛烈に批判していた。フスは公会議で身の安全を保障されていたにもかかわらず、裁判にかけられ処刑された。
第 89 回につづく。

3　中世のイタリア

・中世のイタリアでは、（　　）が断絶した後、分裂状態となっていた。
・また神聖ローマ帝国によるイタリア政策も、分裂状態を複雑にしていた。

・北イタリアでは、（　　）・ジェノヴァ共和国・ミラノ公国・（　　）などの都市国家が成立した。
・また各都市では、介入してくる神聖ローマ皇帝を支持する（　　）と、ローマ教皇を支持する（　　）の対立も発生した。
→イタリアの統一をさらに困難にした。
・南イタリアでは、ノルマン人が建国した（　　）が存在した。
→13 世紀、「シチリアの晩鐘」の結果、シチリア王国とナポリ王国に分裂した。

ヴェネツィア

アドリア海に面したヴェネツィア共和国は、イスラーム世界との交易を行い、「アドリア海の女王」と呼ばれる繁栄を手にした。

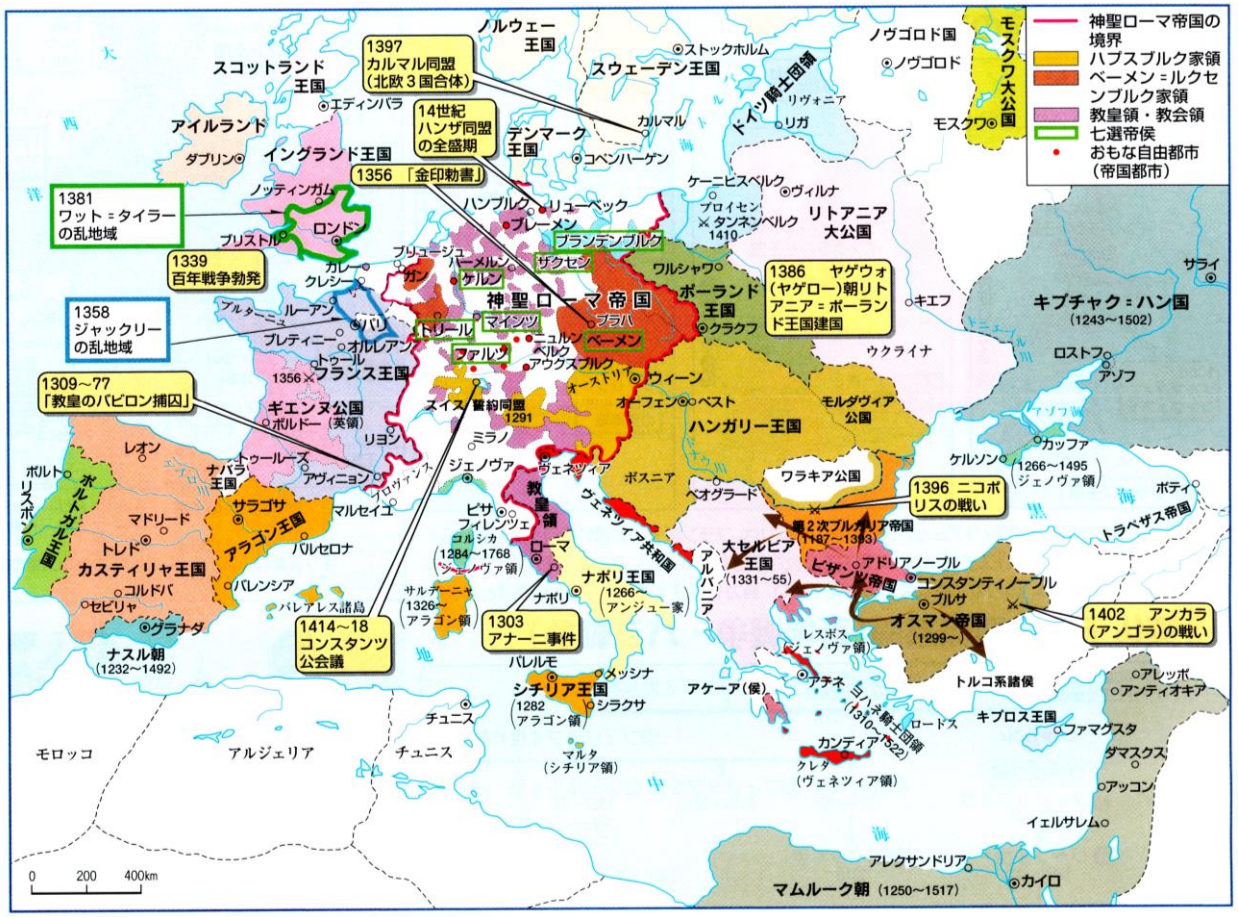
映画『ロミオとジュリエット』

『ロミオとジュリエット』のストーリーは有名だが、なぜ両家の仲が悪いのかは、あまり知られていない。
ギベリンとゲルフの対立が背景にあった。

シチリアの晩鐘

晩鐘とは、夕方に鳴る教会の鐘のことである。
反乱が始まった時に、教会の鐘が鳴り響いたことから、名前がついた。

4　その他の地域

・14 世紀末、デンマーク女王（　　）の主導で、デンマーク・スウェーデン・ノルウェーの同君連合である（　　）が成立した。
・ウラル語系のフィン人は、13 世紀にスウェーデンに征服された。
・神聖ローマ帝国の一部であった（　　）では、13 世紀から独立運動が起こり、15 世紀末には事実上独立した。

マルグレーテ
カルマル同盟によって成立したデンマーク連合王国は、ハンザ同盟に対抗する目的があった。